私たちには、鯖街道がある 日本遺産の活用であすをひらく

日本遺産認定からこれまでの動き

❶日本遺産第１号「御食国若狭と鯖街道」の認定を祝う（平成 27 年４月 24 日）

❷鯖街道歴史研究会が「鯖街道針畑越えガイドマップ」発行（平成 27 年 10 月 15 日）

❹まちの駅オープン（平成 28 年５月１日）

❸日本遺産「御食国若狭と鯖街道」公式ガイドブック発行・ポータルサイト開設（平成 28 年３月 24 日）
http://www1.city.obama.fukui.jp/japan_heritage/

❻田烏でマサバの養殖開始（平成 28 年６月１日）

❺鯖街道ウルトラマラソンに約 1,100 人が参加。有志がサバを背負って京都へ駆け抜け、21 日には前夜祭でおもてなし（平成 28 年５月 22 日）

❼若狭と京都の六斎念仏が旭座で競演。「六斎念仏フェスティバル」開催（平成 28 年８月 27 日）

「御食国（みけつくに）若狭と鯖街道」が日本遺産第１号に認定されてから１年半余りが経過しました。認定を受けて、市と県、若狭町では日本遺産活用推進協議会を設立し、さまざまな事業を展開してきました。

これまでの主な事業や出来事を振り返ります。

遠敷地区では、遠敷丹後街道まちなみ保存推進会が、古民家を活用してふるさと茶屋「清右ヱ門（せえもん）」をオープン。針畑越（はりはたご）えの中継地となる上根来集落には、古民家を改修した休憩施設「助太郎（すけたろう）」が完成し、鯖街道が目に見える形で発信されています。

サバの養殖事業もスタートし、10 月に開催した「鯖サミット」で養殖サバをお披露目。市内で養殖マサバの刺し身の提供が始まりました。

日本遺産「御食国若狭と鯖街道」に誇りを持ち、その活用に期待をかける市民の声を紹介し、地域の元気づくりにつなぎます。

■問い合わせ
商工観光課☎ 64-6019

❾「清右ヱ門」オープン（平成 28 年 10 月 22 日）

左から上根来集落の保全に取り組む上根来百里会会長の岸本（きしもと） 長三（ちょうぞう）さん（68 歳・上根来）と遠敷丹後街道まちなみ保存推進会会長の貫井（ぬくい） 貴史（たかし）さん（54 歳・池田）

❿「助太郎」が完成（平成 28 年 10 月 23 日）

日本遺産を盛り上げる地域のキーマンに聞く

地域の誇りを次世代に伝え、資源を活用したい

―日本遺産認定の効果は。

貫井　町並み保存活動の弾みになりました。ふるさと茶屋「清右ヱ門」が完成したことで、活動の意味を肌で感じることができました。鯖街道とともに、数々の社寺に代表される文化財やお水送りなどの伝統行事が今も息づくこの地域の住民に、誇りと自信が持てたと思います。

岸本　百里会の全員が鯖街道について再認識できました。これまでの保全活動が報われた感じで、今後の活動に自信を持って取り組めます。

―今後の抱負は。

貫井　「百聞は一見にしかず。百見は一試にしかず」で、「助太郎」と「清右ヱ門」をウオーキングでつなぐなどの体験活動を行い、鯖街道の歴史ストーリーを、子どもたちの世代に伝えていきたいです。

岸本　高島市針畑地域との交流を深め、鯖街道を訪れる人たちに宿泊場所を提供するなどおもてなしの充実ができればと思います。今年から炭焼き技術の習得にも取り組んでおり、集落に残る資源の活用を考えています。

⓫「若狭もん」HP 開設（平成 28 年 10 月 29 日）
http://wakasamon.jp/

⓬「鯖サミット」開催。養殖サバのお披露目で、〝鯖のまち小浜〟をアピール（平成 28 年 10 月 30 日）

❽西日本 JR バス若江線に鯖をラッピングした 〝サバス〟 登場（平成 28 年９月 27 日）

⓭若狭おばま日本遺産大学@旭座開講（平成 28 年 11 月 14 日）

左は第１回講師、丁野朗さんの講演

有識者の声

ゴールは地域の元気につなげること

丁野 朗（あきら）さん

ちょうの あきら■日本観光振興協会総合調査研究所長。日本商工会議所観光専門委員会学識委員、文化庁「日本遺産」選定委員などを務める

日本遺産は、個々の文化財を生み出した地域文化を重視し、観光や産業などの地域経済活性化のために活用する制度です。認定がゴールではなく、地域の元気につなげることを目的としています。

観光は、〝コト消費＝物語消費〟とも言われます。この物語消費としてのメッセージをどう明確に打ち出せるかがポイントです。魅力的な数ある文化財を資源として、その裏側にある歴史ストーリーを消費の対象とする〝経済財〟にすることが求められます。

「道の駅」「海の駅」「まちの駅」の３駅が完成し、上根来集落に「山の駅」とも言える針畑越えの休憩施設「助太郎」が、丹後街道には交流拠点施設のふるさと茶屋「清右ヱ門」が整備されました。鯖街道の魅力を切り口に、日本遺産活用の現実的モデルとして、今後の取り組みが期待されます。

鯖街道起点のまちに暮らして…

「鯖街道」の起点のまちに誇りを持って暮らす　2人に聞きました…

杉本さんとトレイルランニング仲間。左から刀根正彦（とねまさひこ）さん（46歳・中村）、杉本さん、赤﨑弘明（あかさきひろあき）さん（47歳・池田）、吉田真紀（よしだまき）さん（41歳・若狭町）。そろいの「サバTシャツ」で鯖街道をPR

歴史に根ざした鯖街道 〝往来復活〟
歴史を感じて走れるのは鯖街道が唯一

聞いた人　**杉本 和範さん**

すぎもとかずのり（37歳・松ケ崎）■平成23年に父の実家のある小浜にIターン。古民家を再生したカフェのオーナー。カフェでは観葉植物の販売なども行う

―杉本さんにとって鯖街道は。

自然の中を走るトレイルランニングに魅せられ、鯖街道ウルトラマラソンにチャレンジして3年になります。日本遺産を走れるのは鯖街道だけではないですか。ワンウェイ（一本道）で起点の小浜から京都の出町まで、約77㌔を、歴史を感じながら走れるのは魅力ですね。私にとっては生活の質を高めてくれるフィールドです。

―小浜に対する思いは。

神戸で生まれ育ち、名古屋で10年働いて小浜に来ました。仕事が都会でなくてもできる時代になりました。仕事をしながら子どもとの時間も作れるし、地域の人とも一緒になって将来のことを考えながら生活できます。

大阪も京都も神戸も小浜から車で約2時間の圏内となり、嶺北にも名古屋にも行き易く、地の利が高い地域となりました。

―小浜に期待するものは。

日本遺産の鯖街道に根ざした小浜のブランド化ですね。ほかではまねができない。鯖街道はここだけなんです。しかも、つながっている先は京都です。海外の人にも魅力的な地域になると考えます。ウオーキング、マラソン、自転車、車に加え、新幹線が通れば、より近くなり、多様な方法で行き来が可能です。

春のウルトラマラソンには千人を超える人が集まります。今年は「サバTシャツ」を作り、サバを背負って走りました。来年はもっと多くの人に広めたいですね。地元の仲間も増えています。鯖街道の往来復活です。

鯖街道への思いを伝える「サバTシャツ」

魚を届ける大事な道〝現代の鯖街道〟
鯖街道をブランドに

聞いた人　**植村 敏雄さん**

うえむら としお（74歳・津島）■昭和57年に脱サラして移動鮮魚店を始める。平成6年から軽トラックで京都市内へ出向き行商。週3回京都へ通う

―植村さんにとって鯖街道は。

待ってるお客さんに魚を届けるための大事な道。朽木を抜ける国道は、まさに〝現代の鯖街道〟です。家内の母がリヤカーを引いて魚を売り歩いていました。自由に商売をしているのに魅力を感じました。40歳で会社を退職し、鮮魚の行商を始めました。バイクから始め、冷蔵設備付き軽トラックに替えてから、新鮮な魚なら売れると考え京都市内へ。もう22年になります。最初は家内と二人で〝飛び込み〟で声をかけましたが、断られることもたびたびで、魚の好きなお客さんを見つけるのに苦労しました。今では、おかげさまで得意のお客さんもでき、週3日の〝京都行商ルート〟ができました。

―どんな魚が人気ですか。

春先から夏はスズキ、マトウダイ、アジ、アマダイ、秋は若狭かれい、これからは鍋物用のタラ、サワラ、アンコウなども喜ばれます。

注文を聞いて切り身に調理して届けたりもします。サバも人気がありますね。

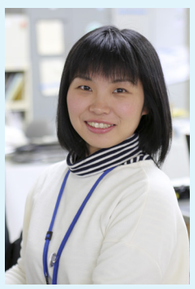
―苦労は。

冬季の雪道の運転ですね。吹雪で引き返したこともあります。待ってるお客さんに迷惑をかけるのがつらいですね。

―日本遺産への期待は。

鯖街道の宣伝をもっと強力にしてほしい。知ってもらうことが大事ですね。小浜に大勢の人が訪れると小浜の魚も売りやすくなります。養殖サバも安く供給してもらえるようになるといいですね。鯖街道をブランドにして売れるように頑張ります。

日本遺産を誇りに活用推進



商工観光課
吉村（よしむら） 靖子（やすこ） 主事（32歳）

鯖街道のストーリー 京都で情報発信を強化

日本遺産認定を契機に、平成28年は鯖の養殖事業や鯖サミットの開催など、「鯖」を切り口に市内外に小浜の魅力発信を行ってきました。「鯖」をきっかけに多くの人が小浜の地に興味を持ち、実際に足を運んでいただくこと。それが日本遺産に認定された歴史深い社寺やお水送りなどの神事、そして全国に誇る食文化など、多彩な小浜の魅力を体感していただくことにつながると考えています。

11月には、「若狭おばま日本遺産大学@旭座」を開講しました。この地域の暮らしの根底にある「御食国（みけつくに）若狭と鯖街道」の歴史ストーリーを学びます。これを誇りとして、代々受け継がれ、育まれてきた伝統をまちづくりに生かす方策を参加していただく皆さんといっしょに考えたいと思います（講座は全5回。毎月1回開催。詳細は11ページ『まちの駅「旭座」イベント情報』でお知らせします）。

日本遺産認定から3年目を迎える平成29年は、鯖街道の終点、京都での情報発信を強化していきます。海・山・街道の自然景観と数多く残る民俗行事に豊かな食がプラスされる小浜の魅力を強みとして打ち出し、京都を訪れる外国人旅行客の受け入れにも取り組みます。そこから、交流人口の拡大による地域の活性化につなげていきたいと考えています。

鯖街道、演歌になる！

御食国大使
秋元 康さんプロデュース

AKB48 出身演歌歌手 岩佐美咲さん「鯖街道」1/10 発売

平成27年3月にAKB48を卒業し、演歌歌手として活動する岩佐（いわさ） 美咲（みさき）さんが6作目のシングル「鯖街道」を1月10日に発売。プロデュースは、御食国大使を務める秋元（あきもと） 康（やすし） さんです。

岩佐さんは平成24年、第1作「無人駅」でデビュー以来、女性演歌歌手として注目されています。これまでの楽曲もすべて秋元 康さんの手によるもので、今回の「鯖街道」発売に期待が高まります。

岩佐美咲「鯖街道」リリース情報（レーベル公式HP）
http://www.tkma.co.jp/enka_release_detail/iwasa.html?rid=8133